

アサヒグループホールディングス株式会社
2023年12月期 第3四半期 決算説明会 説明概要①

日時：2023年11月10日（金）18:00～19:00

当社登壇者：代表取締役社長 兼 CEO 勝木 敦志

◆エグゼクティブ・サマリー (P1)

- 第3四半期決算としては、昨年来の大幅なコストアップが継続する中、増収効果とコスト効率化などにより、グループ全体では、為替一定ベースで6.1%の増収、事業利益については、計画を上回る8.6%の増益を果たすことができました。
- 各地域において競争優位性を高めつつ、適切な価格戦略に加えて、プレミアムカテゴリーやグローバルブランドが拡大していることにより、全地域で持続的な売上単価の向上を実現しています。
- 引き続き、インフレによる需要への影響を注視していく必要はありますが、来期以降を見据え、各地域のブランド投資を強化しながら、年間業績予想の達成を目指していきます。
- また、『中長期経営方針』で掲げているサステナビリティと経営の統合といったコア戦略や人的資本への投資も継続し、経営基盤をより一層強化してまいります。

◆売上単価向上と変動費コストアップ状況 (P2)

- 第3四半期までの売上単価の実績としては、記載のように、日本が9.5%、欧州が15.6%、オセアニアが3.1%となり、主要3リージョンにおいて、引き続き大幅な単価向上を継続しています。
- 単価向上の最大のドライバーは、価格改定効果となっておりますが、プレミアムカテゴリーの拡大に加えて、グローバルブランドにおいては、特に『スーパードライ』が母国市場以外で前年比30%以上の成長を実現するなど、プレミアム戦略が着実に進捗しています。
- 欧州では、一部に大幅なインフレによる影響が見られ、今後も動向を注視していく必要はありますが、トータルの消費トレンドは、上半期から大きな変化とはなっておりません。
- 引き続き、各地域の競争優位性を維持・拡大するため、ブランド投資をより一層強化しながら、プレミアム戦略を推進していく方針です。

- 下段に記載しているコストアップの状況につきましては、原材料やエネルギーを中心に、1-9 月累計では、トータル 800 億円弱の実績となり、ほぼ計画ラインの進捗となりました。
- 年間見通しについても、今後の大きな変動要素はなく、現時点では、想定通りの 1,000 億円程度になると見込んでおります。
- 来期の見通しについては、引き続き精査している段階ですが、一部の原材料やエネルギーにおける市況軟化の効果を享受できる一方で、サプライヤーからの値上げ要請や人件費などの上昇は継続するため、トータルでコストアップになることも想定されます。
- 来期は、コストなど各種リスクを踏まえた業績予想となる可能性もありますが、グローバル調達機能の集約による効率化に加え、更なるプレミアム戦略の推進などにより、中期的には、ガイドラインに掲げる「一桁台後半の利益成長」を目指していく方針に変わりはありませんので、お含み頂ければと思います。
- 最後に、本日、アサヒビール鳥栖工場の操業開始時期につきまして、建設や設備などの費用が大幅に高騰していることを受けまして、当初計画の 2026 年から 2029 年に延期することを開示いたしました。
- また、それに伴い、2025 年末をめどに操業を終了する予定でした博多工場の操業を延長します。この決定に伴い、カーボンネガティブの早期実現を目指したサステナビリティ戦略に多少の遅れなどが生じますが、投資効率を踏まえた総合的な判断にご理解を頂ければと思います。